



## 2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月11日

上場会社名 株式会社スプリックス 上場取引所 東  
コード番号 7030 URL <https://sprix.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 常石 博之  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 平井 利英 TEL 03(6912)7058  
四半期報告書提出予定日 2023年5月11日 配当支払開始予定日 2023年6月5日  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：有（証券アナリスト・機関投資家向け）

（百万円未満切捨て）

### 1. 2023年9月期第2四半期の連結業績（2022年10月1日～2023年3月31日）

#### （1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	15,221	1.8	684	△53.8	688	△53.8	381	△58.6
2022年9月期第2四半期	14,954	39.9	1,482	2.3	1,488	2.9	922	△0.6

（注）包括利益 2023年9月期第2四半期 378百万円（△58.7%） 2022年9月期第2四半期 915百万円（△0.1%）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	22.11	21.68
2022年9月期第2四半期	53.82	52.12

#### （2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	19,847	9,855	49.4
2022年9月期	19,574	9,774	49.8

（参考）自己資本 2023年9月期第2四半期 9,810百万円 2022年9月期 9,739百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	19.00	—	19.00	38.00
2023年9月期	—	19.00	—	—	—
2023年9月期（予想）	—	—	—	19.00	38.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	30,777	4.9	1,226	△55.9	1,240	△55.4	674	△58.0	39.32

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期2Q	17,633,250株	2022年9月期	17,487,150株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	341,285株	2022年9月期	345,285株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期2Q	17,271,492株	2022年9月期2Q	17,135,600株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。

また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当第2四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、ウィズコロナの下で、各種政策により景気が持ち直していることが期待される一方、世界的な金融引締めによる海外景気の下振れ、これにともなうわが国景気の下押しリスクに、十分注意する必要がある状況となっております。

当社グループの属する教育サービス業界におきましては、少子化が進むなかで、様々な教育制度改革が進行しております。

また、新型コロナウイルス感染症の影響を起因とし、あらゆる産業でアナログからデジタルへの転換、サービスの在り方が見直されるなか、IT技術の活用等による新たな教育・指導形態の必要性も一層高まってきております。

中核事業である個別指導形式の学習塾「森塾」におきましては、当第2四半期連結会計期間末において202教室（前年同期比18教室増）展開しておりますが、その内訳は、株式会社スプリックス運営が157教室（前年同期比18教室増）、株式会社湘南ゼミナール運営が45教室（前年同期比増減なし）であります。入塾はコロナ禍以前の水準に回復傾向にあり、かつ退塾率は減少傾向にあることから堅調な推移となりました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末における「森塾」在籍生徒数は39,066人と株式会社湘南ゼミナールの運営する「森塾」と合わせ、前年同期比1,978人増となりました。その内訳は、株式会社スプリックス運営が30,824人（前年同期比2,140人増）、株式会社湘南ゼミナール運営が8,242人（前年同期比162人減）であります。

集団指導形式の学習塾「湘南ゼミナール」におきましては、当第2四半期連結会計期間末において184教室（前年同期比3教室増）を展開しております。新型コロナウイルス感染症が冬期に再拡大した影響、及び2022年春の合格実績が軟調であったことなどから、当第2四半期連結会計期間末における「湘南ゼミナール」在籍生徒数は18,811人（前年同期比435人減）となりました。

講義映像とチューターを用いた大学受験指導を行う学習塾である「河合塾マナビス」におきましては、当第2四半期連結会計期間末において株式会社湘南ゼミナールがフランチャイジーとして49教室（前年同期比1教室増）を展開しております。大学入試における推薦入試の伸長の影響により高校3年生の卒塾が早まったことなどから、当第2四半期連結会計期間末における「河合塾マナビス」在籍生徒数は6,070人（前年同期比378人減）となりました。

なお、当第2四半期連結累計期間における主な学習塾ブランドごとの売上高、セグメント利益、教室数及び生徒数は以下のとおりであります。

	森塾	スプリックス		湘南ゼミナール	河合塾マナビス
		運営	湘南ゼミナール 運営		
売上高（注1）	7,853百万円	6,254百万円	1,599百万円	4,487百万円	1,282百万円
セグメント利益又は 損失（△）（注1、2）	1,604百万円	1,294百万円	310百万円	467百万円	△49百万円
EBITDA（注3）	1,711百万円	1,345百万円	366百万円	638百万円	34百万円
2023年3月末現在教室数	202教室	157教室	45教室	184教室	49教室
2023年3月末現在生徒数	39,066人	30,824人	8,242人	18,811人	6,070人

注1）売上高は外部顧客への売上高、及びセグメント利益は、セグメント間取引の相殺前の数値であります。

注2）セグメント利益又は損失は、のれんを除く無形固定資産の償却費を反映しております。

注3）EBITDAは、営業利益+支払利息+減価償却費であります。

「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「新規事業（研究開発費等を含む）」、「自立学習RED」、「そら塾」、教育関連サービス（フォレストシリーズの販売、「東京ダンスヴィレッジ」、「和陽日本語学院」、「プログラミング能力検定」の運営）等を含んでおります。

「自立学習RED」は、教育ITを利用した学習塾であり、当第2四半期連結会計期間末において直営5教室（前年同期比増減なし）、FC192教室（前年同期比17教室増）を展開しております。

また、「その他」に含まれる教育関連サービスにおきましては、個別指導用教材「フォレストシリーズ」、ICTを活用した映像教材「楽しく学べるシリーズ」、塾講師募集webサイト「塾講師JAPAN」などの既存事業がいずれも好調だったことに加え、AIタブレットで基礎学力を養成する「DOJO」や、株式会社サイバーエージェントグループと協業中の「キュレオプログラミング教室」「プログラミング能力検定」などの新規事業も順調に拡大しております。さらに、投資フェーズではありますが、国際基礎学力検定「TOFAS」の受験者数は順調に増加し、100万人を突破いたしました。

当第2四半期連結累計期間は、新規事業や研究開発に対し積極的な投資を行い、計画に対して順調に進捗いたしました。引き続き、学習塾サービスとの相乗効果を最大限に発揮するための投資、研究開発を積極的に進めてまいります。また、森塾に係る広告宣伝を前年より前倒しして実施しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は15,221百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益は684百万円（前年同期比53.8%減）、経常利益は688百万円（前年同期比53.8%減）、親会社株主に帰属する当四半期純利益は381百万円（前年同期比58.6%減）、EBITDA（＝営業利益+支払利息+のれん償却+減価償却費）は1,269百万円（前年同期比37.9%減）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、19,847百万円（前連結会計年度末比273百万円増）となりました。主な要因は、現金及び預金が216百万円減少したものの、敷金及び保証金が395百万円増加したことなどによるものであります。

### (負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は、9,992百万円（前連結会計年度末比192百万円増）となりました。主な要因は、前受金が746百万円減少したものの、未払金が988百万円増加したことなどによるものであります。

### (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、9,855百万円（前連結会計年度末比80百万円増）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益381百万円による増加の一方で、配当金の支払325百万円による減少などによるものであります。

## (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」といいます。）は、5,719百万円（前連結会計年度末比216百万円減）となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果として得られた資金は、790百万円（前年同期は得られた資金1,092百万円）となりました。これは主に、前受金の減少額746百万円があるものの、税金等調整前四半期純利益688百万円、未払金の増加額911百万円があったことなどによるものであります。

### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動の結果として使用した資金は、512百万円（前年同期は使用した資金635百万円）となりました。これは主に、敷金及び保証金の差入による支出413百万円によるものであります。

### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動の結果として使用した資金は、494百万円（前年同期は使用した資金539百万円）となりました。これは主に、配当金の支払額326百万円および長期借入金の返済による支出181百万円によるものであります。

## (4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2022年11月11日の「2022年9月期 決算短信」で公表いたしました業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,935	5,719
売掛金	241	526
商品及び製品	363	522
仕掛品	43	5
貯蔵品	29	20
未収入金	2,198	2,030
その他	814	812
貸倒引当金	△40	△41
流動資産合計	9,586	9,595
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,004	3,138
土地	450	450
その他(純額)	125	118
有形固定資産合計	3,581	3,708
無形固定資産		
のれん	2,827	2,662
ソフトウェア	196	208
その他	1,251	1,073
無形固定資産合計	4,275	3,944
投資その他の資産		
投資有価証券	25	25
繰延税金資産	446	510
敷金及び保証金	1,593	1,988
その他	66	74
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,131	2,599
固定資産合計	9,987	10,252
資産合計	19,574	19,847

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	136	193
未払金	1,272	2,260
1年内返済予定の長期借入金	363	363
未払法人税等	591	420
未払消費税等	176	229
前受金	4,142	3,396
賞与引当金	451	426
その他	480	650
流動負債合計	7,614	7,940
固定負債		
長期借入金	1,090	909
役員退職慰労引当金	71	72
退職給付に係る負債	115	121
資産除去債務	907	949
繰延税金負債	0	0
固定負債合計	2,184	2,052
負債合計	9,799	9,992
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,431	1,438
資本剰余金	1,421	1,428
利益剰余金	7,266	7,322
自己株式	△385	△381
株主資本合計	9,734	9,807
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	5	2
その他の包括利益累計額合計	5	2
新株予約権	33	44
非支配株主持分	0	—
純資産合計	9,774	9,855
負債純資産合計	19,574	19,847

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	14,954	15,221
売上原価	9,939	10,137
売上総利益	5,015	5,084
販売費及び一般管理費	3,533	4,399
営業利益	1,482	684
営業外収益		
受取利息	0	0
業務受託料	2	0
助成金収入	4	1
受取手数料	—	2
その他	6	2
営業外収益合計	12	7
営業外費用		
支払利息	2	2
支払手数料	1	—
その他	2	1
営業外費用合計	6	3
経常利益	1,488	688
特別利益		
受取補償金	30	—
特別利益合計	30	—
税金等調整前四半期純利益	1,518	688
法人税、住民税及び事業税	635	369
法人税等調整額	△33	△62
法人税等合計	602	306
四半期純利益	916	381
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△5	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	922	381



(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	916	381
その他の包括利益		
退職給付に係る調整額	△1	△2
その他の包括利益合計	△1	△2
四半期包括利益	915	378
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	921	378
非支配株主に係る四半期包括利益	△5	△0

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,518	688
減価償却費	392	409
のれん償却額	152	160
株式報酬費用	12	10
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△2	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△79	△24
成績保証引当金の増減額 (△は減少)	△10	—
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	△17	△26
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	7	3
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	0	1
受取利息	△0	△0
支払利息	2	2
売上債権の増減額 (△は増加)	△8	△116
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△71	△111
その他の資産の増減額 (△は増加)	82	△36
仕入債務の増減額 (△は減少)	13	57
未払金の増減額 (△は減少)	398	911
前受金の増減額 (△は減少)	△692	△746
その他の負債の増減額 (△は減少)	115	200
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△134	82
その他	△33	△131
<b>小計</b>	<b>1,646</b>	<b>1,334</b>
利息の受取額	0	0
利息の支払額	△2	△2
法人税等の支払額	△551	△541
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>1,092</b>	<b>790</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△506	△48
無形固定資産の取得による支出	△30	△55
敷金及び保証金の差入による支出	△111	△413
敷金及び保証金の回収による収入	12	4
その他	0	—
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△635</b>	<b>△512</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
長期借入金の返済による支出	△181	△181
株式の発行による収入	1	13
自己株式の取得による支出	△0	—
配当金の支払額	△359	△326
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△539</b>	<b>△494</b>
<b>現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)</b>	<b>△83</b>	<b>△216</b>
現金及び現金同等物の期首残高	6,163	5,935
<b>現金及び現金同等物の四半期末残高</b>	<b>6,079</b>	<b>5,719</b>

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

（時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用）

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。）を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27－2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、これによる四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2021年10月1日至2022年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 (注3)
	森塾	湘南 ゼミナール	河合塾 マナビス	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	7,436	4,734	1,384	13,555	1,399	14,954	—	14,954
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	7,436	4,734	1,384	13,555	1,399	14,954	—	14,954
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	80	80	△80	—
計	7,436	4,734	1,384	13,555	1,480	15,035	△80	14,954
セグメント利益 又は損失(△)	1,809	764	35	2,608	△52	2,556	△1,073	1,482

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「新規事業(研究開発費等を含む)」、「自立学習RED」、「そら塾」、教育関連サービス(フォレストシリーズの販売、「東京ダンスヴィレッジ」、「プログラミング能力検定」の運営)等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△1,073百万円には、のれんの償却額△152百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△921百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメント、その他に帰属しない販売費および一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

## Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自2022年10月1日至2023年3月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 (注3)
	森塾	湘南 ゼミナール	河合塾 マナビス	計				
売上高								
顧客との契約から 生じる収益	7,853	4,487	1,282	13,623	1,598	15,221	—	15,221
その他の収益	—	—	—	—	—	—	—	—
外部顧客への 売上高	7,853	4,487	1,282	13,623	1,598	15,221	—	15,221
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	87	87	△87	—
計	7,853	4,487	1,282	13,623	1,686	15,309	△87	15,221
セグメント利益 又は損失(△)	1,604	467	△49	2,023	△223	1,800	△1,115	684

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「新規事業(研究開発費等を含む)」、「自立学習RED」、「そら塾」、教育関連サービス(フォレストシリーズの販売、「東京ダンスヴィレッジ」、「和陽日本語学院」、「プログラミング能力検定」の運営)等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額△1,115百万円には、のれんの償却額△152百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△963百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメント、その他に帰属しない販売費および一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。